動労千葉

86. 9. 29

No. 2365

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

『仲間のクビを売って自分だけ助かろう』なんてできない！

国労千葉組合員の良心と怒りの爆発、「労使共同宣言」路線を粉砕

9/25-26 国労千葉地本大会

八万二千人クビ切り（うち五万五千「人活」送り）

動労革マル送りこみ＝国労・動労千葉つぶしの職配転・業務移管の口実ゆ許さない

九月二五～二六日開催された国労千葉地本大会は、地本執行部の〝大胆な妥協〟＝労使共同宣言締結を粉砕し、「分割・民営化」反対の闘いを堅持することを確認し、反撃への突破口を切り拓く、実に偉大な勝利をかちとった。

国労の死につながる「共同宣言」締結を許さない

大会一日目、本吉地本委員長の「二四日の本部方針を尊重し、中闘委の方針を支持する」とした発言に国労組合員の怒りが爆発、代議員・傍聴者は国労の死につながる労使共同宣言を断じて許さなかった。

「二四日の本部方針」「中闘委方針」とはいったい何んなのか。

山崎本部委員長は、運輸大臣・橋本との会談の中で「『分割・民営化反対』の旗を降ろし、合理化に協力する、さらに、当局を相手どった不当労働行為の訴訟を取り下げる、だから『労使共同宣言』『雇用安定協約』を結んでくれ」と哀願したのに対し、橋本・杉浦は、「口だけじゃだめだ。全国、全地本で合理化反対方針を修正し、訴訟を取り下げる、の二点を完全に成しとげた時に『共同宣言』『雇用安定協約』を結ぶ意思がある」と逆に恫喝したのである。

「仲間のクビを売って自分だけ生きのびる」のは、労働組合の道ではない

合理化の受け入れ、一切の訴訟を取り下げるということは、十一月ダイ改合理化で八万二千人の「過員」のひねり出しに、労組自ら協力することだ。何よりも、人活センターに強制配転されている仲間のクビを差し出すことはもとより、一一月ダイ改を認めることによって人活に送り込まれようとしている五万五千人の闘う仲間のクビをも承認するということではないか。

国労組合員の心をも踏みにじる政治取り引きともいえるボス交に対し、二四日、組合員による糾弾闘争は翌朝まで続き、ついに山崎委員長は中闘委での強行を断念したのだ。決着は十月臨時大会にもちこされた。

〝やればできる〟ことを示した偉大な闘い

新聞報道によると、「労使共同宣言を結ぶことは、分割・民営化を認めることであり、全国で闘っている国鉄労働者を見殺しにすることだ」と国労千葉地本大会の代議員から怒りの批判が続出したという。さらに、国労の闘う仲間を先頭とした国労千葉の組合員の「死においこまれた仲間たちに恥しいと思わないのか」「同じ千葉で闘う動労千葉を裏切るのか」との怒りによって共同宣言策動は粉砕され、「分割・民営化」反対の闘いを堅持する方針が確立された。

国労中央が闘う方針をうち出さないのならば、職場から、人活から闘う方針をうち出し、それを行動に移し、やればできるということを国労の仲間たちは、二四～二六日の闘いで力強く示したのだ。

全国の闘う力を総結集して、第三波ストーゼネストへ

「六一・一一」ダイ改が目前に迫っている。ここで反撃にうって出なかったら、「去るも地獄、残るも地獄」に突き落されてしまう。闘う以外に道はない。

今こそ、全国あらゆる職場からの怒りの総反撃を、そして、その力を「一〇・一二国鉄労働者総決起集会―国会デモ」へ総結集して、分割・民営化を阻止しよう。

〈9月25～26日〉

9/27 「本部方針」修正

国労千葉地本の定期大会

代議員ら次々抗議

一時中断 修正方針案も批判

国労地本大会は大荒れで一時中断、組合員同士でも激しい口論になった

国労地本大会の開会波乱

労使共同宣言締結めぐり 委員長に詰め寄る

9/26

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！

『本部方針尊重』に終結

国労千葉地本の定期大会

(9/26 朝日)

代議員ら次々、抗議

一時中断 修正方針案も批判

国鉄分割・民営化への対応など今年度の運動方針を決める国労千葉地方本部（本吉好夫委員長）の定期大会が二十五日、千葉市の県労働者福祉センターで始まった。国労本部が労使共同宣言や雇用安定協約の締結などの柔軟路線をめぐって揺れる中での全国最後の地方大会として注目されたが、「本部方針を尊重する」という本吉委員長の発言をめぐって、会議が一時中断するなど混乱した。運動方針提案でも執行部は「地本は独自で働く考えをもたず、本部が判断した場合はその判断で対応する」という修正案を出したが、これについても代議員から批判が相次いだ。大会は二十六日、運動方針の討論に移るが、採択までには激しい応酬も予想されている。

大会あいさつで本吉委員長は「我々は国民の共有財産と交通権を守り、不当な労働差別に歯をくいしばって闘ってきた」「今後の闘い方としては、山崎本部委員長が言った『大胆な妥協』・本部一任の方針に基づき、雇用と組織を守ることを最重点にする」と述べた。さらに委員長が「地本は本部方針を尊重し、中央闘争委の方針を支持する」とつけ加えたとたん、数人の代議員や傍聴人が立ち上がり強く抗議した。

代議員らは「本部方針を守るとは、労使共同宣言をすることだ。反対を表明しろ」「オレたちを見捨てるのか」と、激しく委員長に詰め寄った。中には、壇上へ上がり、分割・民営化反対の署名簿を手に発言訂正を求める代議員もあり、三十分以上、議事が中断した。

その後、来賓の山崎俊一本部委員長が「大胆な妥協も含め、これからの労使関係について一定の判断をしなければならない。地方本部や分会の一糸乱れぬ団結を」と訴えた。

午後からはこれまでの経過や予算案報告があり、その後、執行部が前夜の国労本部の動きを受けた修正活動方針案を報告。「本部が判断した場合はその判断で対応し、それまでの間、政府案に反対し、社会党案を支持、この闘いを通して国労の組織と雇用を守る」などとした。

これに対し質疑では、代議員から「労使共同宣言を今なぜ結ぶ必要があるのか」「本部の方向転換を認めない」「雇用安定協約と共同宣言でも雇用不安は消えない」など、批判が相次いだ。

委員長発言に抗議する大会参加者。一時間近くにわたって混乱した＝25日午前11時20分、千葉市千葉港の県労働者福祉センターで

(9/27 サンケイ)

運動方針 「分割・民営反対」総括 「諸情勢に対応」

【千葉】国労千葉地方本部（本吉好夫委員長）の第三十九回定期地方大会は二十六日、前日にひきつづいて路線転換をめぐる質疑を再開、これまでの「分割・民営化反対」方針の修正に動く国労本部と歩調をあわせたいとする執行部と、これに反対する代議員の意見が対立、話し合いは平行線をたどった。結局来年度運動方針では執行部が譲歩する形で「分割・民営化反対、雇用と組織を守る闘い強化」をうたった原案を採択、方針に変更がないことを確認して大会の幕を閉じた。

午前中の質疑の中で、東昌良書記長が「『雇用と組織を守る』前提を守りつつ、自民党圧倒的多数などといったわれわれをとり巻く情状況も見なくてはならない」と発言。国労本部の共同宣言締結への同調をうかがわせた。これに反発した代議員らが壇上の机を倒し、大会は一時中断した。

午後、「分割・民営化絶対反対」「共同宣言締結反対」とする代議員三人の意見発表のあと、再び東書記長が「集約」に立ち、「基本姿勢は維持しつつ諸情勢に機敏に対応することが必要」と玉虫色の総括で締めくくった。

玉虫色の国労
千葉地本大会

(9/27 朝日)

独自路線とらず

国労千葉地本 分割・民営化反対闘争 定期大会で確認

国労本部が路線転換をめぐってもめる中で開かれた国労千葉地方本部（本吉好夫委員長）の定期大会は二十六日、「地本は独自で動かす」という方針を確認し閉会した。最盛期には、組合員六千人を超えた千葉地本も、脱退者が相次ぎ、現在は三千八百人台。雇用と組織を守ることが第一、とする執行部は、「分割・民営化絶対反対」から「当面は反対運動を続ける」とトーンダウンした。

この日も朝から、国労本部執行部が目指す路線転換について、「労使共同宣言を締結することは、分割・民営化を認めること。分割・民営化に反対の署名をした人や、入活センターに送られた人、弾圧の中で闘っている人を裏切ることになる」。「『労使共同宣言には反対する』ということを集約で明確にすべきだ」など批判的な意見が相次いだ。

こうした意見に対して、昼過ぎ東書記長が地本の中間答弁として、「雇用と組織に関しては闘って闘い抜いてから判断するのは誤り」と発言したところ、一部の代議員や傍聴人が壇上に駆け上がり、机を倒すなどして混乱。議事が中断する一幕もあった。しかし、最後の集約で東書記長は「本部が進めようとしている路線に反対の意見は多数あったことを、中央に意見として上申する」と取りまとめ、閉会した。

集約された四項目確認

国労千葉地本大会で

"大胆な妥協"＝労使共同宣言 締結路線を粉砕し、
「分割・民営反対」の闘いを堅持することを確認、
国労千葉地本大会、偉大な**勝利の突破口**きりひらく！

(1)「分割・民営化」に反対し、今日まで進めてきた地域闘争・県民運動の強化を進めていくことを集約の中でとり入れる。
(2)「労使共同宣言の締結に反対する意見が多数あったことを認識すること」を付記し、本部へ報告する。
(3) 中央情勢の推移をみつつ全国大会で一定の結論が出された場合は、早やかに機関会議を開催し意志統一する。
(4) 分割・民営化反対の今日までの方針を進めていく。

第1日目（9月25日）

第2日目（9月26日）

(9/27 読売)

運動方針やっと採択

国労千葉定期大会終わる

千葉市の県労働者福祉センターで開かれていた国労千葉地本（本吉好夫委員長）の定期大会は二十六日、運動方針を採択、「雇用と組織を守るため全力をあげて闘う。選別・差別は絶対に許さない」などの大会宣言を採択して閉会した。

今年度の運動方針案の予算案に対する質疑の中で、「首切りを認める労使共同宣言には賛成できない」「労組としての精神を売り渡す行為」などと、中央本部の労使共同宣言や雇用安定協約締結を目指す柔軟路線に非難が相次いだ。

それに対し、東昌良書記長が、雇用と組織の安定に関しては、闘い抜いてから判断していたのでは遅いという趣旨の発言をすると、代議員や傍聴人の一部が「代議員の意見を全然聞いていない」と壇上に詰め寄り混乱、質疑は、昼休みを含め約二時間半中断した。

東書記長が「中央情勢の推移を見つつ、臨時全国大会で一定の結論が出されれば、地方でも機関会議で意思統一を図る」などと集約、運動方針採択にこぎつけた。

(9/27 毎日)

路線転換反対意見も含めて採択

国労千葉大会

国労千葉地方本部の第三十九回定期大会は二十六日、前日に引き続いて千葉市千葉港の県労働者福祉センターで開かれ、運動方針案とともに「国労中央が分割・民営化反対路線を転換して労使共同宣言と雇用安定協約を結ぼうとする動きに対し、千葉地本の中には多くの反対意見が出ている」などとの意見集約も含めて採択し、大会を終えた。